

視 察 調 査 報 告 書

委 員 会 名	議会運営委員会						
参 加 者	委 員 長 杉浦 久直 副委員長 柴田 敏光 委 員 酒井 正一 加藤 嘉哉 畑尻 宣長 杉山 智騎 加藤 学 中根 武彦 原田 範次 議 長 小木曾智洋						
視 察 日 時	令和6年5月15日（水）13：30～15：00						
視察先・概要	大阪府箕面市 人口：13万5,773人 世帯数：6万1,440世帯 面積：47.90k㎡						
視 察 項 目	議会改革について						
視 察 概 要	1 議会DX推進の背景 ・ 市民意識の変化 （市民は、課題に対応するスピード感と活動の見えやすさを求めている、地方自治体に求めるニーズが変化している。） ・ 箕面市議会は議会改革度ランキングでもトップ水準と評価されている一方、議会に対する市民の評価の多くは、市長と比較して大きな差があり、定数削減や報酬削減の声が上がっている。 ・ このような現状の危機感から、市民意識の変化に対応した新たな議会の姿を示すため、議会DXの推進に取り組んでいる。 2 デジタルツールの活用 (1) 第1フェーズ（デジタルツールへの取り組み） ア 経緯 <table border="1"> <tr> <td>平成28年～</td><td>Y o u T u b eによる本会議、委員会等のライブ配信及び無期限の録画配信を開始</td></tr> <tr> <td>令和元年4月 8月 9月</td><td>グループウェア（サイボウズ）の導入 タブレット端末の導入 議会HPの大幅なりニューアル</td></tr> <tr> <td>現在</td><td>議会運営や災害対応におけるL I N E及びL O G Oフォームの活用</td></tr> </table> イ 検討体制等 ・ 検討、実践においては、各政策会派代表者で構成する部会を組織体制として整備 ・ 企画、検討から研修、議員個人々人へのフォローアップまでを議員自らが担う	平成28年～	Y o u T u b eによる本会議、委員会等のライブ配信及び無期限の録画配信を開始	令和元年4月 8月 9月	グループウェア（サイボウズ）の導入 タブレット端末の導入 議会HPの大幅なりニューアル	現在	議会運営や災害対応におけるL I N E及びL O G Oフォームの活用
平成28年～	Y o u T u b eによる本会議、委員会等のライブ配信及び無期限の録画配信を開始						
令和元年4月 8月 9月	グループウェア（サイボウズ）の導入 タブレット端末の導入 議会HPの大幅なりニューアル						
現在	議会運営や災害対応におけるL I N E及びL O G Oフォームの活用						

	(2) 第2フェーズ（デジタルツールを活用し議会の権能を最大化） ア 現在 オンラインによる委員会開催の体制整備等を進める イ 今後 行政事業のチェックを行う上での市民ニーズ・評価の把握をデジタルアンケートで行う等の取り組みを想定 3 民間企業（株式会社ディー・エヌ・エー）との包括連携協定 (1) 締結日 令和5年5月24日 締結 (2) 目的 議会のICT化を、さらに一步漸進させるため (3) 役割 2名のアドバイザーを派遣 議会DX推進部会の座長補佐への就任 研修の講師や日常的なアドバイス
所 感 ※視察しての感想 や岡崎市への提 言など	・箕面市では、ペーパーレス化などDXを進めながら議会改革に取り組んでいる。また、全ての本議会、委員会の放映をYouTubeでライブ配信を行っている。予算を考えなくてよい点はメリットであるが、将来的に容量の問題や、有料となる可能性があることから、心配される点も考えられる。DXを進めて議会だより等を発信する。また映像発信、議事録の公開等を行っていることから、将来的には一般質問の掲載をなくすことを考えているということである。議会が先行して新しい取組を行っていくことを否定するものではないが、市民の方々が取組のスピードに追い付いていけるのか疑問である。本市も将来的には、議会改革として遅れを取らないように前に進まなければならないが、市民に温かい誰もが理解のしやすい議会であることが大事であるので、慎重に進めていくことが重要である。 ・箕面市議会では、DXの推進に積極的に取り組んでいる。株式会社ディー・エヌ・エーとの包括連携協定を締結し、議会運営の効率化や透明性の向上を目指している。具体的には議会のペーパーレス化、市民とのコミュニケーション強化を図るためのデジタルツールの導入などである。本市でも共通して実施していることもあったが、今回、特に感心した点は、YouTubeでのライブ配信や長期間の保存をすることにより、市民の視聴回数が出るため、それが全てとは言わないが、視聴者が今、どんな事柄に興味があるのか、関心があるのかが行政や議員にも、一つの目安にできると考える。本市でも導入することで市民サービスの向上に役立つと思う。 ・「開かれた議会へ」という基本理念の下、議会改革検討会議を設置して市議会の改革に取り組んだとのこと。平成25年から改革に向けてスタートし、議会だよりをリニューアルしカラー印刷に刷新している。議会での一般質問は、それまで一括質問一括答弁だったものを一問一答方式に変更、市民との意見交換会の実施、そして議会改革の集大成として、箕面市議会基本条例を平成30年に制定した。現在、本市でも

取組を進めているペーパーレス化においても、議案書等は全て印刷製本を廃止してデータ資料のみにしている。本市においては完全ペーパーレス化の実現ができていないため、箕面市の取組を参考にして議案書等の印刷製本を廃止するべきと考える。一方、本市では大学生との意見交換会を実施し、今年度は高校生との意見交換会を予定しており、先進的に議会改革を進めている部分もある。箕面市をはじめとした他市の議会改革の先進事例を積極的に取り入れることも必要であると感じた。

・箕面市における議会改革の一環として、議会のＩＣＴ化及び議会ＤＸへの取組について説明を受けた。また、議会ＤＸに向けては、令和５年に株式会社ディー・エヌ・エーと包括連携協定を締結し、自治体ＤＸの課題解決に向けてプロジェクトを進めているところである。ＤＸとは、ＩＴ化、あるいは、ＩＣＴ化により個別プロセスにおける冗長性等の排除や、効率化等により生み出される、時間的余裕をはじめとするリソースを活用し質的に改善、改革を行っていくことである。本市においては、既に、ＩＴ化、ＩＣＴ化は他自治体と比較し全く遜色ないレベルにあると思われる。今後は、そのリソースが何であり、何処へ、どう議会へと活用していくかを考えるべきである。これまで、なんとなくでしか理解していなかったＩＴ、ＩＣＴ、ＤＸ等について改めて理解を深めることができた。箕面市の進める「開かれた議会」としての、議会改革の中にＩＴ化、ＩＣＴ化を土台としたＤＸを上手に取り込んでいることを確認し、本市においても参考にできるところは多々ある。

・議会改革として、市議会だよりの２色刷りからカラーへと変更し、分かりやすく、議会を身近に感じてもらう工夫が読み取れた。さらにＹｏｕＴｕｂｅ配信は、予算をかけずに行っている。いずれは費用が発生すると思うが、市民へ議会の様子を伝える手法の一つとしての考え方だと感じた。ＩＣＴの活用は、ツールとしてどう活用していくのか、という観点でしか捉えられていなかった。それは、今のやり方を便利にするものと考えていたが、箕面市では、逆にＩＣＴツールを使うために、やり方を変えていく必要があるということだった。大事なことに気づかせてもらった。これからの本市の議会改革に取り入れていきたい。

・箕面市の議会ＩＣＴはハードをＳｕｆａｃｅＰｒｏ、ソフトをサイボウズを使用しているということで、とても興味深かった。特に予算書や決算書もデータ化しているところにＩＣＴへの取り組みの強い姿勢が感じられた。また、議会ＤＸの推進に関わる包括連携協定を株式会社ディー・エヌ・エーと締結し、新たなフェーズへ移行しており、今後の動きに注目していきたい。議会基本条例を制定するときのパブリックコメントが８０件に上り、市民への周知方法を質問したら、各議員が市民への広報をしっかりと行っているからと聞き、本市としても

	力を入れていくべきと改めて感じた。開かれた議会への議会改革を、本市として何ができ、何をすべきかをこれから熟考していく必要がある。 ・平成25年に設置された議会改革検討会議により本格的な協議が開始され、継続的な改革が着実に実施されている。その一つ一つが参考となるものである。定数、報酬の本質的な部分を検討するためのプロセス「箕面モデル」の決定や、市の「公立幼稚園の段階的廃止や公立保育所の民営化の拡大」に対する市長へ方針転換を求める政策提言や、議員間の自由討議の場である委員会協議会を設置し自由討議の充実を図る点などは、実に興味深いものである。また、議会DXの推進については、第1段階をICT化、第2段階をデジタル化、第3段階をDX化と、達成すべき目標や目指す姿を明確にして進めていることは、理解しやすく分かりやすく改革が進められるものと思われる。 ・平成25年に議会改革検討会議を設置し、同時に改革内容や検討項目を詳細に協議するための専門部会を立ち上げ、本格的に議会改革に取り組んだ。それ以降、年を追うごとに色々な改革に取り組み、議会基本条例制定、政務活動費の会計証拠書類公開、タブレット端末の導入などの改革を多く行ってきた。平成25年から令和4年まで色々な改革を手がけてきたようであるが、令和5年にさらなるICT化を目指して一般企業である株式会社ディー・エヌ・エーと包括連携協定を締結した。このことは、ICT化を議会DX化へ大きく改革したように思える。企業との連携後、大きな問題はないようであるが、議会のDX化が進み過ぎて市民とのギャップが出てしまうような気がした。ただ、議会のDX化は、手段であって目的ではないはずであるから、「開かれた議会」という目的は上手くできていくように思えた。最後に、箕面市の議会改革の中心になった人物が箕面市の市議会議員であったことには驚いた。当然、議会事務局も協力していたと思うが、いずれにしてもスーパーマン的な人物が存在していたからこそ、ここまでの議会改革が達成できたと思われる。 ・議会のICT化、DX化を進められている。議会が指定管理者と直接議論することを想定していると聞き、本市においても検討したい。
委員長の総括	大阪府箕面市は新しい鉄道駅も開業するなど、大阪のベッドタウンとして人口は増加基調であり、転入されてきた新しい住民に対して、議会を身近に感じてもらうための議会改革の取組が続けられており、議会改革度ランキングでも上位に位置している。なかでも近年は議会ICT化からさらに進んだ議会DXへ向けて、株式会社ディー・エヌ・エーとの包括連携協定を締結するなど、より積極的な取組が進められている。そうした説明をいただいた箕面市議会の議会運営委員長から感じられたことは、首長の進める取組に置いていかれないようにとの危機感であった。市政のDXの進展、また、市長が市民から直接意見を集約し返答しているなかで、議会の役割をどう市民に理解してもらうか。本市議会に

	においても、議会改革、議会ＩＣＴ化推進などの取組はそれほど遅れることなく進んでいるが、問題意識は共通するものがあり、より不断の努力が必要であると感じる視察であった。
--	--